

スペイン語の語彙バリエーションと辞書

上田博人

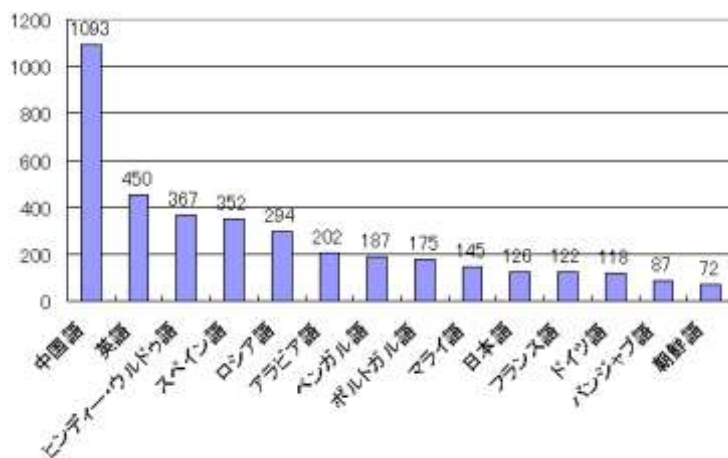
はじめに

21 カ国で 3 億 5000 万人の話者をもつスペイン語は、ロマンス語の中でもっとも広域性のある言語の一つである。その語彙の様相を見ると、ラテン語から継承された中世スペイン語が求心的な基盤を作り、16 世紀以降スペイン語圏各地で発展した近代・現代語彙が豊かな多様性を生んでいる。しかし、その広域性・多様性ゆえに、スペイン語の語彙研究は未だ近代・現代語彙の全体を俯瞰できるレベルには達していない。

本稿では、私たち日本のグループが世界の研究者たちとのネットワークにより過去 8 年間(1992-2000)に蓄積した語彙バリエーションの研究成果を紹介し、広域スペイン語の辞書作成への利用法について触れる。各地の方言研究、言語地図、辞書などの資料の他に、語形と地点の 2 次元マトリックスによる分析法を説明する。また、出版形態として、従来の書籍としての辞書とデータベースに基づくインターネット版の辞書を比較する。

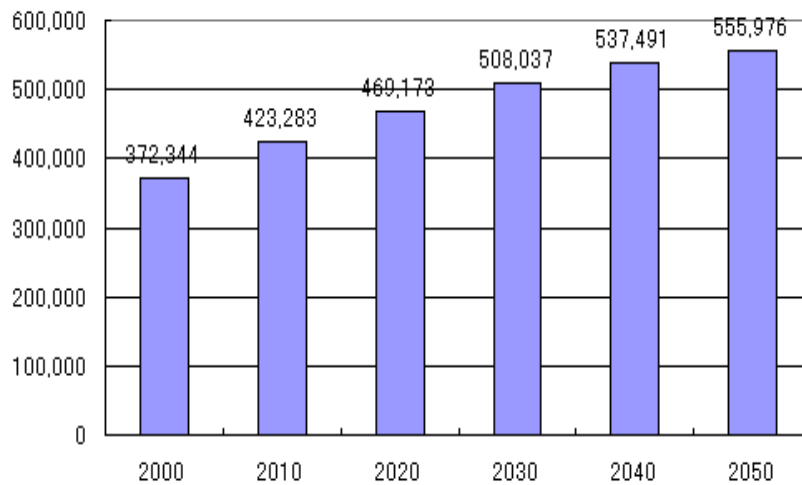
1. スペイン語の広域性

スペイン語の使用人口については、スペイン語圏各国の人口調査や統計的推計によって、およそ 3 億 6000 万人という数字が挙げられる(World almanac, 1995)。これは、中国語、英語、ヒンディー・ウルドゥー語について世界で第 4 位となる(【図-1】)。そして、スペインとラテンアメリカ 19 カ国およびアフリカの赤道ギニアで公用語とされているため、4 大陸 21 カ国に広がる。また、アメリカ合衆国のスペイン語人口は 2600 万人を超え、全人口の 10%に達している。



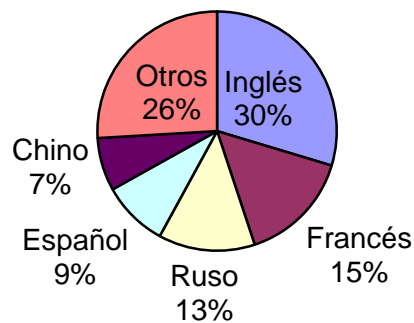
【図-1】 各言語の使用人口。単位 100 万人

また、アメリカ合衆国の **Bureau of Census** によれば、近年の人口増加率を勘案して 2050 年までにスペイン語総人口は 5 億 5500 万人にも達すると予想される(【図-2】)。



【図-2】 スペイン語の使用人口の予想推移. 単位 1000 人

使用域の総面積は、およそ 1200 万平方キロメートルで、これは世界の陸地の 9% を占めていることになる(【図-3】)。



【図-3】 言語の使用地域総面積

このように広大な地域に多数の人々によって使用されるスペイン語ではあるが、その地理的変異は少なく、スペインの王立アカデミーを中心とする規範化への求心力は非常に強い。音韻的にも文法的にもシステムを大きく変えるほどの変化は少なく、比較的安定している。

一方、語彙についてはどうであろうか。語彙は各地の言語文化を反映するものであ

るから、当然、その地方性(regionalismo)は豊かで、とくに食物をはじめとする植物や動物、習慣、制度、伝統、など多くの特有語を生んでいる。そして、中世の伝統とは隔絶した近代生活の産物については各地で様々な語形が観察される。しかし、それがまったく混沌の状態であるのではなく、地理的な連続性と同一地域の等質性は保たれていると言える。

2. インターネット上のスペイン語辞書

辞書の中に語彙の地理的分布を記述するのは当然であるが、このように広大で、多様なスペイン語の語彙バリエーションを調査するのは困難である。しかし、近年では、情報化とネットワークによって研究環境が著しく変化し、資料の蓄積も以前と比較して格段に容易になった。

インターネットによってもたらされる情報はすでに膨大であり、多くの研究者や言語の愛好家が日々情報を発信しているため、その蓄積は日々さらに拡大されている。その情報の網目は一見混沌の渦の中にあるようだが、そこには一定の秩序ができあがりつつある。あたかも書物の目次のような役目を果たしているのが、「リンク集」と呼ばれる特殊なページである。たとえば、スペイン・レオン大学のホセ・R・モララのホームページ(【図-4】)はスペイン語の語彙バリエーションの地理的・年代の変異に関する世界中のホームページをリンクさせている。



【図-4】 <http://www3.unileon.es/dp/dfh/jmr/dicci/0000.htm>

以下に、広域スペイン語のバリエーションを扱ったもののなかから特に重要なものを引用する。

Diccionario de regionalismos de la lengua española (DRLE). La obra recoge, según sus autores, más de 30.000 acepciones de uso regional en el ámbito hispánico.

<http://www.hispanicus.com/drle/>

Diccionario latinoamericano. Una amplísima recopilación del léxico usual en diversas zonas de América. Incluye frecuentemente contextos de uso y explicación etimológica, además de indicar el ámbito geográfico de uso.

<http://www.contenidos.com/biblioteca/diccionario/index.html>

Diccionario de la Lengua. Hecho con la colaboración de los lectores, palabras y expresiones del mundo hispánico indicando siempre el ámbito geográfico de uso.

<http://www.ematei.com.ar/lalengua/diccionario.html>

Diccionario de modismos. Relación de vocablos y expresiones para los que inicialmente se indica sólo la categoría gramatical de la palabra y el país en el que se utiliza. Abriendo el enlace correspondiente se accede a una ficha más amplia aunque no siempre con muchos más datos. Más que definiciones, lo que se incluyen son sinónimos en el español general y en las diversas variantes hispanas.

<http://www.latin-connection.com/spanish/modismo.cgi>

他にもスペイン語圏各国の「地域語辞典」が発信されている。ここではすべてを紹介することはできないが、こうした多くの興味深い豊かな資料はリンク集を辿ることによってたやすく入手することができるようになった。

3. スペイン語語彙バリエーションの研究

3. 1. これまでの研究

先に挙げた各地のホームページは、いわば地域語(「お国言葉」)の紹介が多く、総合的な辞書のレベルには達していない。確かに各地に特有の言葉については多くの情報をもたらされているが、一定の概念に対応する語形がスペイン語圏全体にどのように分布しているのかを知ることはできない。これは言語地理学の研究成果である言語地図の形で示されるものであるが、スペイン語圏全体を俯瞰するような地図はない。

私たちが1992年以来進行させている国際共同研究(Proyecto Varilex)では、毎年200ほどの共通概念について、スペイン語圏各地の都市の語彙バリエーションを記録している。次はその年度毎の進行状況である。

【表-1】 Encuestas anuales

Año	Encuesta	Ciudades	Conceptos	Publicación
1994	A	44	152	Varilex 3
1995	B	39	163	Varilex 4
1996	C	38	193	Varilex 5
1997	D	45	199	Varilex 6
1998	E	44	41	Varilex 7
1999	F	61	187	Varilex 8

現在まで 61 都市（地点）に在住する研究者を介して、次のように分けられる 4 人のアンケート対象者を選び、共通の質問表（冊子）に記入を依頼してきた。

- a) Hombre de 18 a 39 años
- b) Hombre de 40 a 80 años
- c) Mujer de 18 a 39 años
- d) Mujer de 40 a 80 años

たとえば、「靴下（ソックス）」については、次のような形式で質問する。（これには一足の靴下の絵が添えられている。）

VRLX-A24. SOCKS. Prenda de punto que recubre el pie.

(1) calcetas; (2) calcetines; (3) calcetines cortos; (4) medias; (5) soquetes.

(&) Otro(s) _____ (\$) Comentarios:

このように候補となる語形を提示するのは、言語の現地調査ではあまり行われない方法で、むしろ語形を「誘導」することになるので、避けられているのが普通である。しかし、私たちの目的は特定地域の集中的な現地調査ではなく、アンケートによる全域の比較調査なので、むしろ回答が正しく集中するようにあらかじめコントロールしておいたほうが都合がよい。もちろん、候補以外の語形も排除せず、それらは「別形」(otros)として改めて記入してもらおう。これらの別形が多くある場合は、未だ語形と地点の分布が拡散していると考えられるため、別形を候補に含めた新質問票を作成して、さらに追跡調査をする。多くの場合はこの段階で分布が収束する。つまり、新しい別形が現れなくなる。全調査地点を集計すると次のマトリックスが得られる。

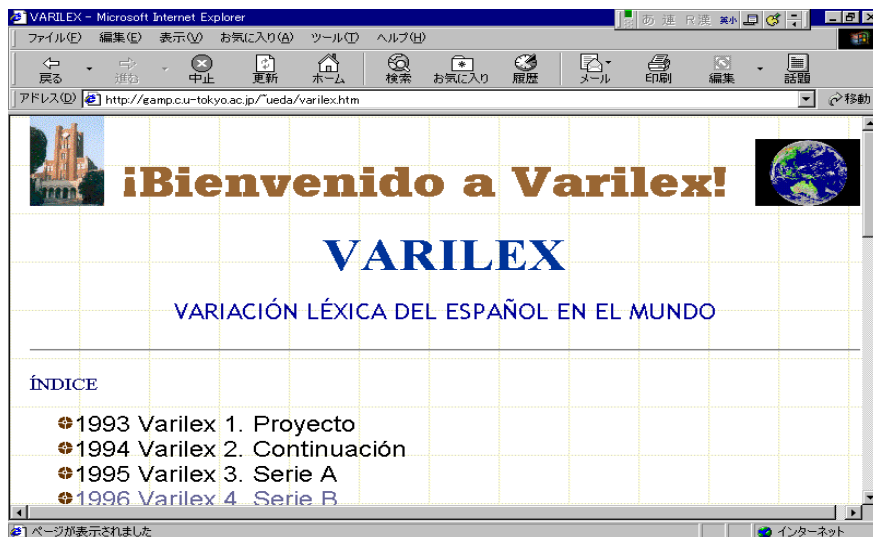
【表-2】 A024: [SOCKS] Prenda de punto que recubre el pie.

	E	E	E	E	E	E	E	E	E	E	E	E	E	E	C	C	R	P	P	E	E	M	M	M	H	N	N	E	C	P	C	V	V	P	B	C	C	C	P	U	A	A	A	A	.						
	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	U	U	D	R	R	U	X	X	X	O	I	I	L	R	N	O	E	E	E	O	H	H	H	A	R	R	R	R	R	R	R	R	R	.	
	C	S	O	S	B	G	Z	M	V	M	S	A	T	P	H	S	S	D	N	M	A	M	N	L	M	S	S	P	M	V	T	A	P	A	S	C	A	M	S	S	N	B	.								
	O	C	V	L	A	D	A	A	A	U	E	L	E	A	A	C	T	J	O	Y	O	O	G	E	A	E	A	S	J	A	E	N	A	R	A	R	C	O	S	T	A	J	E	U	.						
	R	O	I	M	R	L	R	D	L	R	V	M	N	L	B	U	I	U	R	K	R	N	S	X	C	O	N	A	O	N	D	C	G	E	Z	I	H	N	U	V	L	N	U	E	.						
																																								Total											
1)																																								15											
2)	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	2	.	1	1	.	2	4	4	4	7	3	2	4	4	.	1	1	.	1	3	2	4	2	2	.	1	.	1	.	112								
3)																																								9											
4)	.	1	76	
5)																																								16											

語形と地点の二次元配列からは多くのことがわかる。ここからクラスター分析などの多変量解析によって、難題とされていた語彙による方言区画にも一定の精度の量的分析が可能となる(Ueda, 1995c)。また、同一地点に生起する複数の語形には何らかの意味の違いがありうるので、インテンシブな質的分析(意味分析)を行う必要がある。

3. 2. これからの研究

近年語彙研究の環境が大きく変化してきたことは研究の発表形式についても同じである。これまでの印刷物(論文・書籍)の形態に加えて、インターネット上でも高いレベルの内容と良質のプレゼンテーションを備えた「研究誌」(revista)が発行されている。これには、印刷物では不可能であったハイパーテキストという仕組みを取り入れることができる。すなわち、参照すべき項目や情報をテキスト上の文字や図にリンクさせることができるのである。このリンクは、さらに別のリンクによって関連する世界中の多くの情報にアクセスすることを可能にする(【図-5】)。



【図-5】 <http://gamp.c.u-tokyo.ac.jp/~ueda/varilex.htm>

また、同じリンクは、インターネット上の別のテキストに限らず、音声・画像・映

像までもがファイル形式となって、当該のテキスト上に表現することができる。次は私たちがバルセロナ大学と共同で進めている非言語コミュニケーションの資料（ビデオクリップ）の一部である。



【図-6】 <http://gamp.c.u-tokyo.ac.jp/~ueda/gestos/gestos.htm>

インターネット上では、上のテキストの下線部をクリックすることによって、実際の非言語伝達の映像がビデオクリップの形で再生される。

こうしたマルチメディアによる新しい出版形態は、これからの辞書のあり方にも当然影響を与えると思われる。たとえば、私たちの研究グループのアントニオ・ルイス (Antonio Ruiz, 1999, 2000)はオンラインで検索が可能となるスペイン語語彙バリエーションのデータベースを完成させている (【図-7】)。



【図-7】 <http://varilex.call.sophia.ac.jp/bugrep.htm>

4. おわりに

以上で、広域スペイン語辞書を編纂するための基礎研究として私たちが行ってきた語彙バリエーションの研究と、これからの展望の一部を簡単に紹介してきた。おわりに、研究者の共同作業とネットワークの重要性について触れたい。年度毎に200以上の項目と30,000以上のレコードを蓄積するプロジェクトを推進するためには、個人の力では及ばないことが多くある。幸い、このような研究の意義を認めていただいた日本の研究者の協力を得ることができ、共同でインテンシブな現地調査とエクステンシブなアンケート調査を繰り返すことができるようになった。外国からもホームページを見た研究者や学生が興味を持ち、Eメールなどで協力を申し出ている。このように、コンピュータという機械による（冷たい）情報化だけではほとんど不可能なことをネットワークで結ばれた多くの人々の共同作業が可能にしてくれていることに感謝して本稿を閉じたいと思う。

(*本稿は「日本ロマンス語学会」2000/5/27での口頭発表を文章化したものである。発表後に貴重なご意見をいただいた参加者の方々、ホームページの転載を許可していただいた José Morala 氏、 Mar Forment 氏、 Antonio Ruiz Tinoco 氏、そしてこの原稿を綿密に査読していただいたロマンス語学会の編集委員に感謝いたします。)

Referencias

- Ávila, Raúl. 1997. "Variación léxica. Connotación, denotación, autorregulación", *Varilex*, 5, pp.13-27.
- Bravo Herrera, Fernanda. 1996. "Japón y el español en el mundo", *Clave (Buenos Aires)*, agosto de 1996, pp.6-7.
- Fernández, Francisco Jesús. 1995. "Comentarios sobre Varilex 2", *Varilex*, 3, pp.19-30.
- _____. 1996. "Comentarios críticos sobre Varilex 3", *Varilex*, 4, pp.9-25.
- _____. 1997. "Comentarios críticos sobre Varilex 4", *Varilex*, 5, pp.28-40.
- _____. 1998. "Cuatro años del Proyecto Varilex", *Varilex*, 6, pp.8-16.
- _____. 1999. "Comentarios críticos sobre Varilex 6", *Varilex*, 7, pp.9-42.
- _____. 2000. "Comentarios críticos sobre Varilex 7", *Varilex*, 8, pp.10-38.
- Nakajima, Sayaka. 1999. "Comentarios sobre Varilex 6", *Varilex*, 7, pp. 43-45.
- _____. 2000. "Comentarios sobre Varilex 7", *Varilex*, 8, pp. 39-47.
- Ruiz Tinoco, Antonio. 1999. "El Proyecto VARILEX en Internet. Base de datos compartida de variación léxica", *Varilex*, 7, pp. 50-60.
- _____. 2000. "Manuel del lenguaje SQL aplicado a la base de datos de Varilex", *Varilex*, 8, pp. 48-70.
- Takagaki, Toshihiro. 1993. "Hacia la descripción del español contemporáneo de las grandes ciudades del mundo hispánico", *Lingüística Hispánica*, 16, 65-86.
- 高垣敏博, 上田博人, Emma Martinell, María Gelabert. 1998『スペイン語ジェスチャー小辞典』

白水社.

- 高垣敏博, 上田博人, Raúl Ávila. 1996. 『都市を読む辞典。街角で見たスペイン語』(高垣敏博と共著) 三省堂.
- 上田博人. 1993a. 「現代スペイン語圏都市の言語文化研究: 予備調査の結果」『スペイン語学研究』(東京スペイン語学研究会) 8, pp.49-68.
- _____. 1993b. "División dialectal de Andalucía. Análisis computacional", *Actas del Tercer Congreso de Hispanistas de Asia*, Asociación Asiática de Hispanistas, Tokio.
- _____. 1994a. 「これからのスペイン語辞典」『京都産業大学国際言語科学研究所所報』 15,2, pp.21-46.
- _____. 1994b. 「現代スペイン語語彙の現地調査: メキシコ」『スペイン語学研究』(東京スペイン語学研究会) 9, pp.91-107.
- _____. 1994c. "Banco de datos léxicos del español: Un proyecto internacional de investigación", *Verba, Anuario Galego de Filoloxía*, 21, pp.379-416.
- _____. 1995a, 1996, 1997. 「都市のスペイン語の語彙バリエーション: 分析の技術(1, 2, 3)」『スペイン語学研究』 10, pp.73-91. 11, pp.73-91; 12, pp.89-104.
- _____. 1995b. "Variación fonológica en el léxico urbano español", *Lingüística Hispánica*, 18, pp.105-125.
- _____. 1995c. "Zonificación del español. Palabras y cosas de la vida urbana", *Lingüística*, 7, pp.43-86.
- _____. 1996a. "Variación léxica del español urbano. Distribución: Vestuario y equipo (1)", *Revista del Departamento de Lenguas Extranjeras. Facultad de Artes y Ciencias de la Universidad de Tokio*, 43/4, pp.99-144.
- _____. 1996b. "Estudio de la variación léxica del español. Métodos de investigación", *Homenaje al profesor Makoto Hara*, Universidad de Estudios Extranjeros de Tokio.
- _____. 1996c. "Análisis demolingüístico del léxico variable español", *Lingüística Hispánica*, 19, pp.63-98.
- _____. 1999. 「スペイン語の辞典」寺崎英樹・山崎信三・近藤豊編『スペイン語の世界』世界思想社, pp.172-187.
- _____. 2000. ""Distribución de las palabras variables en España y en América. Léxico del transporte", *Estudios de Lingüística Hispánica. Homenaje a María Vaquero*, pp.637-655.

(※次の論文や著作に本稿で扱った VARILEX 計画について触れられている。)

- 井上史雄. 1995. 「パソコン利用の現状と課題. 方言」『日本語学』(明治書院) 1995, 7, p.65.
- 岸大介. 1999. 「ラテンアメリカのスペイン語」寺崎英樹・山崎信三・近藤豊編『スペイン語の世界』世界思想社, p. 155.
- López Morales, Humberto. 1996. "Rasgos generales", en Manuel Alvar (ed.) *Manual de dialectología hispánica. El español de América*, Barcelona. Ariel. pág. 23.
- _____. 1998. *La aventura del español en América*. Espasa-Calpe.

Moliner, María. 1998. *Diccionario de uso del español*. (2a ed.), pág. xv.

Vaquero, María. 1996. *El español de América II. Morfosintaxis y léxico*. Madrid. Arco Libros, pág. 74.

Variación léxica del español y el diccionario

Hiroto Ueda

La lengua española posee unos 350 millones de hablantes en 21 países del mundo y es una de las lenguas de extensión más amplia dentro del ámbito románico. En cuanto a sus aspectos léxicos, observamos que el léxico de tradición medieval heredada del latín constituye una base centrípeta, mientras que el léxico moderno urbano produce una rica diversidad que se ha venido desarrollando en diferentes lugares desde el siglo XVI. El estudio del léxico español, sin embargo, no ha llegado al nivel de contemplar todo el panorama de su amplia variación. En este artículo, presentamos unos resultados de la investigación léxica acumulada en los últimos ocho años (1992-2000) por el grupo japonés en colaboración con los investigadores de otras partes del mundo.

【付表】 世界のスペイン語人口

	スペイン語人口	人口	%
Argentina	35.300.000	35.409.000	99,7
Bolivia	6.810.000	7.767.000	87,7
Chile	13.080.000	14.583.000	89,7
Colombia	35.850.000	36.200.000	99,0
Costa Rica	3.382.000	3.468.000	97,5
Cuba	11.190.000	11.190.000	100,0
Ecuador	11.100.000	11.937.000	93,0
El Salvador	5.662.000	5.662.000	100,0
España	38.969.000	39.323.000	99,1
Guatemala	7.270.000	11.242.000	64,7
Guinea Ecuatorial	443.000	443.000	100,0
Honduras	5.718.000	5.823.000	98,2
México	92.890.000	94.275.000	98,5
Nicaragua	4.112.000	4.632.000	87,4
Panamá	2.088.000	2.719.000	76,8
Paraguay	2.805.000	5.089.000	55,1
Perú	19.440.000	24.371.000	79,8
Puerto Rico	3.741.000	3.809.000	98,2
Rep. Dominicana	7.650.000	7.802.000	98,1
Uruguay	3.050.000	3.185.000	95,8
Venezuela	22.060.000	22.777.000	96,9
Total	332.610.000	351.706.000	94,6

http://cvc.cervantes.es/obref/anuario_99/otero/p03.htm